

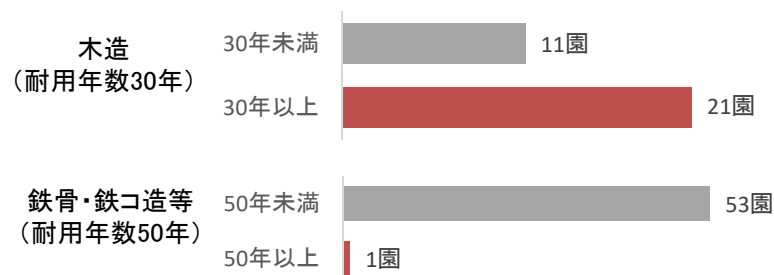
市立保育園配置計画に基づく 大江山保育園の閉園（案）について

資料 1

なんのために行うの？ 《計画策定の背景、現状と課題》

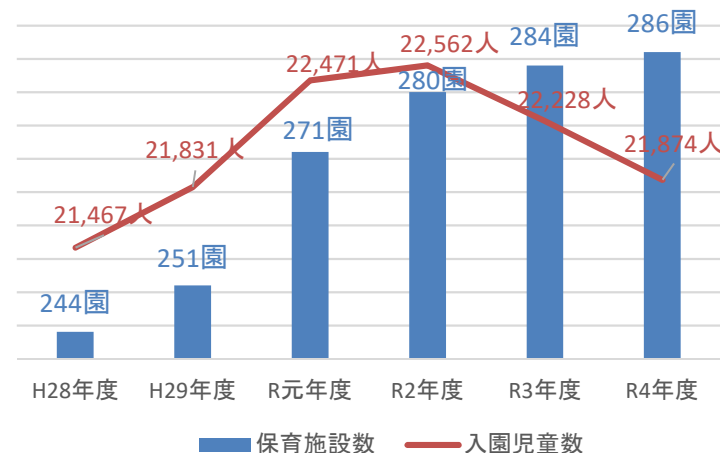
- 本市では、多くの市立保育園で老朽化等が進んでおり、保育環境の改善が喫緊の課題となっています。
- 一方で、近年、民間保育施設の増加や入園児童数の減少が進むなど、近い将来待機児童対策に一定の目途が立つと見込まれる中、保育施策の重点を「量(受け皿の増加)」から「質(保育の質の向上)」へシフトしていく転換期を迎えています。
- これらの状況を踏まえ、市立園の民営化等を通じて老朽化等の(環境面の)課題を解消しつつ、地域の保育需給バランスを適正化するとともに、その過程で生まれる資源を活用することで、より質の高い保育サービスを提供し続けていくため、平成30年10月に「市立保育園配置計画」を策定しました。

市立園の構造別・建築年数
(2021年度末)



※耐用年数は、税法上の減価償却資産耐用年数を参考に設定したものであり、耐用年数を超えた施設がただちに使用できなくなるわけではない(全ての施設について耐震改修済みであり、安全性確保のための対応を行っている)。

新潟市における
保育施設数・入園児童数の推移



市立保育園・認定こども園の耐用年数到達時期一覧※1

		～R6	R7～R11	R12～R16	R17～
北	12	太夫浜、越岡	ちとせ、早通北、太田、三ツ森、若葉	かやま※6、すみれ、二葉	早通南、木崎
東	10	山ノ下、大山、中野山、第二中野山、東中野山、石山※5		山木戸、中山※6	大形、桃山
中央	12	しなの、山湯	入舟	白山、流作場、長嶺、敷島※5	八千代※6、万代※2、沼垂、鳥屋野、ロータリー
江南	13	両川、ことぶき、大江山、亀田第一、亀田第二、曾野木※3、第二曾野木※3	亀田第三	横越双葉、亀田第五	横越中央※6、横越小杉、亀田第四
秋葉	5	新金沢※4		新津東、小須戸※6	金津、矢代田
南	12	新飯田	臼井、にししろね、あじほ、古川※4	諏訪木※6、根岸、大通、月湯	白根、大鷲、小林
西	11	内野、上五十嵐、坂井、坂井輪、小針	大野、寺地、山田		興野、木場、黒崎なかよし※6
西蒲	11			岩室、巻、松野尾、七浦、中之口※6	和納、巻つくし、すわ、漆山東、漆山西、かきの実
全区	86	24施設	14施設	22施設	26施設

※1 耐用年数は、木造30年、鉄骨50年で整理。下線は、令和3年度末時点で耐用年数を超過する施設。(ただし、全施設耐震改修済)

※2 令和2年2月に、宮浦乳児と統合新設 ※3 令和4年4月に、統合・民営化 ※4 令和5年度末をもって閉園予定

※5 令和6年度末をもって閉園予定 ※6 令和4年4月から連携拠点園に選定

何を行うの？ 《適正配置の方向性、市立保育園の役割》

◎ **将来にわたって安定的に保育サービスを提供するため、基本的な保育サービスは原則民間に委ねることとし、市立保育園は条件が整い次第、順次閉園していきます。**

- 市立・私立の保育サービス(内容、基準、保育料など)は基本同じであり、市立から民間に移行することで、持続的な保育サービスの提供と、多様化する保育ニーズに対応した柔軟なサービス提供の促進を図ります。

(参考)市立保育園と私立保育園における市財政負担割合の違い(イメージ)

【市立】		【私立】		
← 保育園運営にかかる経費(公定価格) →		← 保育園運営にかかる経費(公定価格) →		
利用者負担	市負担※ (全額市の一般財源)※	利用者負担	市からの委託費 (1/2国負担)	(1/4県負担) (1/4市負担)※

※ 国からの交付税措置がなされているが、額をしゅん別できないため本資料では表していない。

◎ **市立保育園は、地域におけるセーフティネット機能を果たすほか、市全体の保育の質の向上に資する機能を強化していきます。**

- 総数を減らすことにより削減した資源(財源、人員等)を、医療的ケア児等の受入や休日保育の実施など様々なサービスに充てるほか、私立や認可外施設を含む域内の保育施設の監査や指導体制の強化などに生かすことで、市全体の保育サービスの質の向上や、子育て施策の充実につなげます。

最終的にどうなるの？ 《計画の目標、全体像》

施設	概ね20年後には、現在の半数程度とします。(86施設 ⇒ 45施設程度)
職員	施設の減少と併せて適正配置を進め、正職率について、同規模政令市と同等の50~60%とします。(正職率 約3割 ⇒ 約5~6割)

早急に対応が必要な施設

1. 既に耐用年数を超過している	太夫浜、山ノ下、大山、中野山、石山、第二中野山、東中野山、しなの、山潟、両川、ことぶき、大江山、亀田第一、新金沢、新飯田、内野、上五十嵐、坂井、坂井輪、小針
2. 新すこやか未来アクションプラン(H27～H31)において既に実行予定としている	石山、第二中野山、白山、敷島、長嶺、内野、上五十嵐
3. 地域別実行計画において既に検討を開始している	かやま、すみれ、太田、若葉、ことぶき、坂井
4. 利用児童数が20人未満(児童福祉法上の認可保育所定員の下限)	新飯田
5. 近隣に民間保育施設ができるため、受け入れの可能性はある	山ノ下、古川

※下線は、「1 既に耐用年数を超過している施設」にも該当

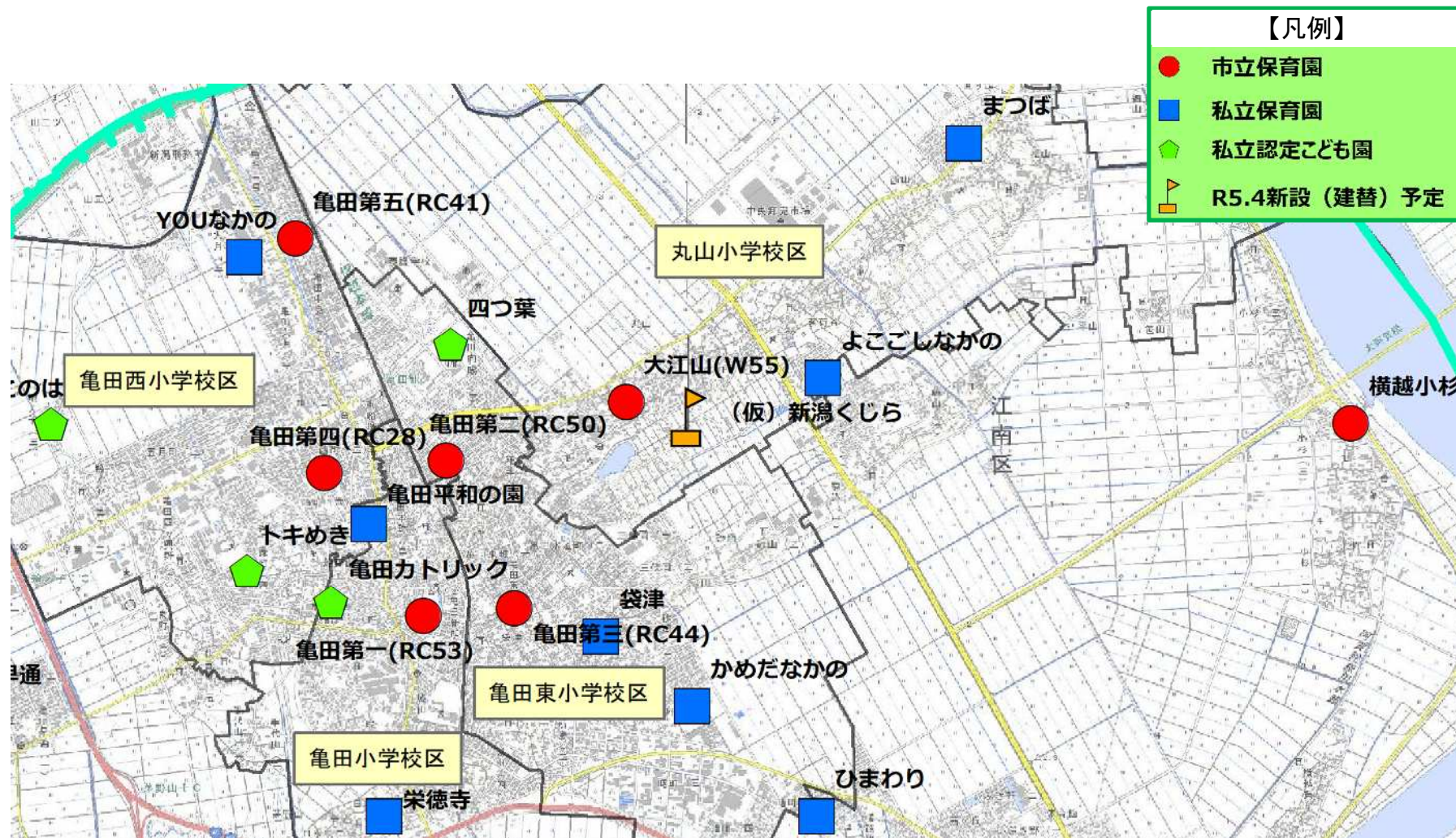
大江山保育園の状況について

- 大江山保育園については、築55年(木造)であり、老朽化が進んでいるとともに、駐車場不足という課題を抱えている。(上記1.に該当)
- 一方で、施設近隣には、令和5年度に認定こども園の新設(保育定員60名)が予定されているなど、在園児の受け皿を確保できる状況にある。(上記5.に該当)



以上の状況を踏まえ、今後閉園に向けた調整を進めていくこととした。

(参考) 大江山保育園周辺 教育・保育施設位置図



大江山保育園の閉園について(案)

(1) 閉園にかかる基本的な考え方

- 閉園時期は、在園児への影響に最大限配慮し、公表年度から概ね3年後の年度末を目途とする。
【理由】3歳以上児の保育の継続性(卒園まで在籍可能)、3歳未満児の転園のしやすさに配慮
- 公表翌年度の新規受入は原則0~1歳児のみとし、翌々年度4月以降は原則停止する。
【理由】保育の継続性及び低年齢児の保育ニーズに配慮

(2) 公表から閉園までの基本スケジュール

R4年度	R5年度	R6年度	R7年度
閉園公表(10月)※1	受入縮小※2	受入停止※3	閉園(3月)※4

※1 R5.4入園用の入園のてびきにて、閉園予定時期、募集停止時期を公表

※2 新規入園については、原則、0~1歳児かつ在園児童の保育提供体制の範囲内でのみ受入

※3 原則、新規入園は受け付けない。

ただし、在園児のきょうだいのほか、通常の利用調整等の結果、他に受入先がないなど、特別に配慮すべき児童等については、柔軟に対応

※4 令和7年度末の閉園を目途とするが、閉園公表後、転園等により、在園児が数人程度となる場合、在園児保護者の理解を得た上で、閉園を早める場合がある。

閉園までの在園児数推移(見込み)

令和4年6月時点

年齢	0歳	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	合計
人数	1	7	10	10	11	10	49

各年度在園児数見込み

R4年度	R5年度	R6年度	R7年度	R8年4月 (転園)
	0歳(1人) →	1歳(1人) →	2歳(1人) →	3歳(1人)
0歳(1人) →	1歳(8人) →	2歳(8人) →	3歳(8人) →	4歳(8人)
1歳(7人) →	2歳(7人) →	3歳(7人) →	4歳(7人) →	5歳(7人)
2歳(10人) →	3歳(10人) →	4歳(10人) →	5歳(10人)	
3歳(10人) →	4歳(10人) →	5歳(10人)		
4歳(11人) →	5歳(11人)			
5歳(10人)				
49人	47人	36人	26人	16人

年度途中の入園及び転園は考慮していない
R5年度の0~1歳児の入園児数は見込み